

安心の設計

介護、医療、子育て、老
るご意見・疑問をお寄せ
メールansin@yomiuri.c
ファクス03・3217・9957

認知症の高齢者が、家庭的な雰囲気の中で安心して暮らすための施設に、「認知症グループホーム」(認知症対応型共同生活介護)があります。住宅地にあることが多く、少人数で、顔なじみのスタッフからの支援を受けながら共同生活をするイメージです。

介護のキホン 13 認知症グループホーム



◆認知症グループホームのイメージ



家事などを担うことで、認知症の進行を緩やかにする期待も

▲家庭的な雰囲気の中、ダイニングテーブルで利用者さん(右)と話す職員さん(左)

管理者の滝口智子さん(54)は「他人が9人も一緒に生活する場だから時にはいさかい

「できることは自分で」実践

11月下旬、東京都西東京市の「ねんりんはうす」を訪れ

か声をかけています。「のんびり、ゆったり、マイペース」が施設のモットーです。利用者の間でちよっとした言い争いになることもありますが、職員は危険なことが起こらないように見守り、仲裁はしません。

2003年開設のねんりんはうすでは、現在は看取りの対応もしています。最近、暮らし慣れたこのホームで最期まで過ごすことを望まれるケースも増えたといえます。

◆看取りへの対応は施設によって異なります。将来的に希望する場合は、医療機関との連携状況なども事前に確認しておくのがよいでしょう。

も起る。でも、皆さん色々な経験を積んできた大人ですし、自然に収まります」と話します。せかさず、本人のリズムに合わせた生活が一番と考え、食事の時間や出し方、量なども個々に合わせます。

グループホームの利用にかかる費用は要介護度により異なります。介護保険の自己負担分(所得に応じて1~3割)と家賃や食費、水道光熱費などの合計で、1割負担だと月15万~20万円ほどが目安です。買い物代や外出時の費用は別途必要です。施設によっては入居時に一時金などが必要になる場合もあります。

また、認知症の症状が進んだり、医療的なケアが必要になったりした時には、グループホームで生活を続けることが難しくなる場合がある点にも留意が必要です。

*次回は12月14日に掲載予定です。